

本年度大会の成功のために

(東京) 福 武 直

本年度の大会は家族と村落の二部門に分けて、その戦後十年の変化を考える計画であるという。このことは、昨年の大会でも提起されたもので、大変結構だと思ふ。

日本農村の家族や村落は、戦前と変らぬ面をもつと同時にいろいろの面で変動の様相をみせている。その変動の諸側面を、不変の面とともに指摘し、「何故変つたのか」「何故変らぬのか」「変化と不変の間にいかなる関連があるのか」ということを追究することが今後の研究の課題を示唆することになる。戦後十年を経た現在、こうした点を確定し新しい研究方向を志向しなければ、われわれの研究は一層の前進を期しえないであらう。そうした意味において、本年度の大会は、今後の村研大会の飛躍のための基礎を固めるものにならなければならない。こうした成果をあげるために、われわれは会員の兼知をあつめて効果的な討論を行うのに必要な準備を考えてみたいと思ふ。次の会報までに、そうした具体的な方法の案が事務局あてに多数もたらされることを願つてやまない。